

## 公開シンポジウム（20日）のご案内

### 「現代の生活とまちづくり—生活学からの検証—」

基調講演：北原 啓司（弘前大学：都市計画・コミュニティデザイン）

「空間」を「場所」に変えるまち育て」

報告者：

①富田 宏（株式会社漁村計画・日本生活学会：漁村計画、地域計画、安全・安心のまちづくり、建築設計）

「大きな転換局面にある漁村まちづくりの課題と計画技術の再構築」

②真鍋 陸太郎（東京大学工学系研究科都市工学専攻：都市計画、まちづくり、都市の情報）

「生活と都市の中の情報」

③矢野 敬一（静岡大学教育学部：地域社会論・近現代文化史）

「まちづくりと文化資源化 — 城下町村上を事例として—」

④窪田 亜矢（東京大学：地域デザイン）

「原発被災地域の復興まちづくりから学ぶこと」

コメンテーター

①森栗 茂一（大阪大学：エリア・マネジメント）

②黒石 いずみ（青山学院大学）

司会：有末賢（亜細亜大学）

### 企画趣旨

現代の日本社会では、増田レポートに代表されるように、「選択と集中」の政策から「地方消滅」の危機が叫ばれる一方で、「地方創生」のドラが高らかに鳴らされている。地方自治体は、こぞって「地方創生」「まちづくり」の掛け声で、補助金を申請し、公共事業を誘致し、東京オリンピック（2020年）に乗り遅れるなどアイデアを絞っている。

しかし、生活学の観点から「まちづくり」を検証してみると、東日本大震災の復興まちづくりにしても、アートのまちづくりやスマートシティ、環境まちづくりなどすべてうまくいっているとは言えない。

自治体の政策、都市計画の参加型まちづくり、コンサル業界によるワークショップ形式などもちろん、各都市、各地方において独自に工夫されている面もあるだろうが、どこか画一的、丸投げの性質が露出しやすい面も多い。

ここでは、各報告者が地道に調べている（あるいは実践している）まちづくりを見ていく中から、真に生活者にとっての「まちづくり」とは何なのか？生活学は、「まちづくり」にどのように貢献できるのか？を考えていきたい。